

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

認定こども園 きっずこくらみなみ

## 1. 本園の教育目標

遊びを通して

- 自分の好きな遊びを見つけて友達としっかりと遊べる子ども
- 自分のことが楽しく話ができる子ども
- 自分の思いを楽しく表現できる子ども
- 人の話を聞くことができ、考えられる子ども
- 自分からあいさつができる子ども

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

昨年保育の内容や行事の在り方を見直し、子ども主体の保育を考え計画する。  
保護者会主催の行事を再開し、親子とのかかわりの中で実のある保育計画を進めていく。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	保育について	個人やグループや縦割りでの小さな集団での保育の中で一人ひとり にあった指導ができた。コロナ禍で学んだ新しい保育の在り方を昨年の経験をもとに保育が取り組めた。
2	行事への取り組み (保護者理解)	行事に関しては保護者主催のきっずまつりやもちつき、子どもたちと共に親子で楽しみ思い出深い年度となった。子どもたちも2.3歳児、4.5歳児の関わりに深い保育を計画し、園外保育など先生同士の共通理解の輪も広がった。
3	教師の保育の質の向上	今までの行事や保育を新しい生活・保育スタイルを自ら考えて保育にいかせた。「健康の大切さ。当たり前有難さ」を再確認し、コロナ以外の感染症の感染対策・自己管理の徹底も図れた。

## 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

園の方針や理念を全教職員が共通認識し、自己点検・自己評価に取り組むことで自ら保育を振り返り、今年の保育・行事を基本 に園との発信も含め、保護者に理解・協力を得て、共に成長し合っていきたい。

## 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	衛生・安全管理	感染症対策・地震・水害・避難・犯罪などに備え日常的に話し合いをもち危機意識を高め向上を図る。保護者を含めた避難けいこを実施する。
2	地域との連携 (幼小の連携)	地域に愛される園を目指して、地域の実情、保護者のニーズ、子どもの実態を踏まえて連携を強化する。地域や小学校とも積極的に声をかけ連携を図る
3	教職員間の協力	教職員間の協力 異年齢との関りや幼児と教師の連携を充実し、常に個々の成長を把握し、協力を願い 保育に役立てる。

## 6. 学校関係者の評価

コロナの制限もなくなり、楽しいきっずらしい行事が戻って充実した1年だったと思います。保護者会としての活動もできるようになり、ソフトバレーやソフトボール、きっず祭り、もちつきなど子どもたちはもちろん、保護者とのつながりを強く感じた年度でした。運動会では保護者のむかでのやりレーなども復活し、3歳以上児ではお弁当をみんなで囲み午後のプログラムも楽しみました。コロナで制限してできなかった子どもたちとの絆や思い出をこの大切な幼少期に沢山の行事の中で子どもとの向き合い方を体感して教えてもらい、親子共々の心の成長を促してくれる先生方には本当に感謝しています。来年度も進化していく園であり続けてほしいと思います。